

## 第5学年 国語科学習指導案

平成30年11月22日（木）6校時

5年2組 児童35名

指導者 伊賀 大祐

### 1 単元名 「和の文化の伝達者」になろう

教材名 「和の文化を受けつぐ—和菓子をさぐる」（東京書籍5年）

### 2 単元について

#### (1) 児童観

本学級の児童は、5月「動物の体と気候」において、序論、本論、結論の文章構成や要旨を押さえながら説明文を読み取る学習をした。意味段落それぞれに書かれている内容を短くまとめ、文章構成図に整理しながら要旨を読み取った。しかし、読みの力に個人差があり、意味段落相互の関係やキーワードが捉えられず、適切に要旨をまとめる力にも、大きな差が見られた。

4月実施のCRTでは、どの領域の通過率も全国平均並みであった。しかし、小領域別に見ると「話すこと」の小領域「目的に応じて適切に話すこと」と「伝統的な言語文化と国語の特質」の小領域「文の構成に関すること」の通過率が低い。このことから、話題や観点に沿って話す力や、文や文章の構成をおさえて正確に読む力が不十分であると考えられる。

#### (2) 単元観

本単元では、学習のゴールとして、自分の選んだ和の文化の魅力について図書資料で調べ、それを国語科で「くらしの中の和と洋」について学んでいる4年生に向けて、プレゼンテーションするという言語活動を設定する。プレゼンテーションでは聞き手に納得してもらうために、話し言葉だけではなく、図表や具体物等の資料を提示しながら説明することが重要であると考えられる。このように、言語表現に加え、より理解を促す情報を選択して伝える活動は、「目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえて読む」「目的に応じて、必要な情報を考えながら読む」といった力を付けることになる。それを下学年の4年生に伝えるという場を設定することによって、より伝わりやすい内容や文章構成を考え、図書資料からの情報を整理する活動に主体的に取り組むことができると考える。

本教材は、伝統的な文化に関するものの中でも想起しやすい和菓子を題材としており、序論、本論、結論の構成が明確な文章である。和菓子の伝統を受け継ぐことの大切さを、「①歴史、②他の文化との関連、③支える人々」の3つの観点から説明するという構成は、その後の調べ学習やプレゼンテーションへとつなげやすい。さらに、写真や図表などの資料も用いられており、資料活用へのイメージも持ちやすくなっている。このように、複合的な領域のねらいを達成するのに適した教材である。

#### (3) 指導観

第一次では、「和の文化」の魅力テーマとした教師のプレゼンテーションモデルを示し、「和の文化」への関心を高めるとともに、もっと詳しく調べてみたいという気持ちにさせる。そして、単元のゴールとして、図書資料等で調べた「和の文化」をグループで発表することを知らせる。発表対象は4年生であることを伝え、明確な相手意識を持たせる。併せて、教室内に和の文化に関する図書資料を置き、並行読書を促し、見通しを持たせて二次の学習につなげていく。

第二次では、聞き手に分かりやすく伝えるための説明の仕方や資料の提示の仕方を学習すると

いう目的を意識して、教材文「和の文化を受けつぐ」を読み進めていく。まず、本教材末にある発表原稿例をもとに、説明文と発表原稿の違いに気付き、効果的な資料の使い方をおさえる。そして、教材分の文章構成と使われている資料をおさえた上で、本論に書かれている説明文を発表原稿に書き直していく。写真や図表、グラフ等の資料を文章と関連付け、動作や言葉を付け足しながら読む活動は、三次での発表原稿作成に直結しており、丁寧に取り組みせたい。

第三次では、まず、二次で身に付けた力を使って、4年生に伝えたい「和の文化」の魅力を図書資料等で調べ、情報を収集整理させる。そして、どのような文章構成や資料を用意すれば、内容が伝わりやすいのかを考えながら発表原稿にまとめる。発表会では、4年生からの質問や感想を受け、調べ方や資料の出典など、学習が広がるように伝えさせたい。

### 3 単元の目標 「話すこと・聞くこと」イ話すこと 言語活動例(2)ア

「読むこと」ウ説明的な文章の解釈 カ目的に応じた読書

- 和の文化の魅力について調べ、発表するという目的を意識して読み、進んで調べてみたい課題を探したり、資料の提示の仕方を工夫して話したりしようとしている。
- 伝えたい内容や目的に合わせて、資料を活用して説明することができる。
- 観点や構成に着目して文章を読み、要旨をとらえることができる。
- 複数の本や資料を、目的を意識して読むことができる。

～はりまや橋小学校「学校図書館の活動を通して付けたい力系統表」より～  
**【情報の表現・伝達】** 相手や目的に対して、適切な方法を選び工夫して表現・伝達する。  
 (文章、スピーチ、ポスター、リーフレット、パンフレット、新聞、紙芝居、ペープサート、劇、プレゼンテーション等)

### 4 重点指導事項

**【A(1)イ】** 目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫しながら、場に応じた適切な言葉遣いで話すこと。

**【C(1)カ】** 目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べて読むこと。

### 5 単元の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	話す・聞く能力	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
和の文化について調べて説明するという目的を意識して読み、進んで調べてみたい課題を探したり、資料の提示の仕方を工夫して話したりしようとしている。	事柄が明確に伝わるように、説明の構成を工夫している。 <b>【A(1)イ】</b>	①観点や構成に着目して内容を的確に理解して要旨をとらえ、資料と文章を関連付けながら読んでいる。 <b>【C(1)ウ】</b> ②自分の課題を解決するために、複数の本や文章を比べて読み、必要な情報を選んでいる。 <b>【C(1)カ】</b>	文章のいろいろな構成について理解している。 <b>【伝国(1)イ(キ)】</b>

### 6 学習指導計画 (全 14 時間)

次	時	学習内容	評価				
			関	話	読	言	評価規準・評価方法
一	1	○学習の見通しを持つ。 ・和の文化について調べ、4年生に対してプレゼンテーションで説明するという学習の見通しを持つ。	○				<b>関</b> 「和の文化」について関心を持ち、調べて説明するという目的を意識して文章を読もうとしている。 <b>【発言・行動観察】</b>

二	2	○発表原稿例を読み、説明の構成や資料の使い方を知る。 ・説明文と発表原稿の違いに気付く。	○				関説明文と発表原稿の違いに気付き、効的な資料の使い方をおさえている。 【発言・行動観察】
	3	○文章構成図にまとめる。 ・「和の文化を受けつぐ」を通読し、文章構成をおさえる。 ・本論の3つの観点と資料について確認する。			○		読文章構成図にまとめ、3つの観点と資料に着目しながら文章を読んでいる。 【ワークシート・発言】
	4	○「和の文化を受けつぐ」を通読し、序論を発表原稿に書き直す。 ・写真を言葉や動きを補いながら文章と関連付ける。			○		読「和の文化を受けつぐ」の内容をとらえ、写真と文章との効果的な結び付きを考え、発表原稿に書き直している。 【ワークシート・発言】
	5	○本論1を読み、文章を発表原稿に書き直す。 ・年表を言葉や動きを補いながら文章と関連付ける。			○		読年表と文章との効果的な結び付きを考え、発表原稿に書き直している。 【ワークシート・発言】
	6	○本論2を読み、文章を発表原稿に書き直す。 ・写真を言葉や動きを補いながら文章と関連付ける。			○		読写真と文章との効果的な結び付きを考え、発表原稿に書き直している。 【ワークシート・発言】
	7 (本時)	○本論3を読み、文章を発表原稿に書き直す。 ・写真と言葉や動きを補いながら文章と関連付ける。 ・複数の資料から必要なものを選び、文章と関連付ける。			○		読写真やグラフ等と文章との効果的な結び付きを考え、発表原稿に書き直している。 【ワークシート・発言】
	8	○筆者の伝えたいことを読み取る。 ・結論部分を読んで文章の要旨をまとめ、筆者の伝えたい和に対する自分の考えを書く。			○		読要旨をとらえ、それに対する自分の考えや感想を持っている。 【ワークシート・発言】
	三	9	○取り上げる題材と調べる観点を決め、いろいろな本や資料で調べる。 ・自分が選んだ和の文化について図書資料で調べ、説明する観点を考えて材料を集める。			○	
10		○プレゼンする内容を考える。 ・伝えるために必要な材料を選び整理する。 ・足りない材料を追加する。			○		話聞集めた情報を観点ごとに整理し、必要な情報を選んだり組み合わせたりして、説明する内容を考えている。 【ノート・行動観察】
11		○説明の構成と必要な資料を考える。			○		話聞伝えたいことを意識して、事柄が明確に伝わるよう発表の構成や資料を考えている。【ノート・行動観察】
12		○構成に沿って、発表する内容を考え、資料を用意する。 ・フリップや発表メモを作成する。			○	○	話聞発表の構成や資料の使い方を意識して、発表する内容を考え資料を作っている。【原稿・資料・行動観察】 言文章のいろいろな構成について理解している。【ワークシート・発言】
13		○説明の内容や資料の使い方などについて、グループで助言し合いながらプレゼンの練習をする。			○		話聞発表原稿をもとに、用意した資料を用いながら説明する練習を行い、よりよい発表の仕方を考えている。 【原稿・行動観察】
14		○4年生にプレゼンする。			○		話聞伝えたいことを意識して、事柄が明確に伝わるように資料を活用しながら説明している。【行動観察】

7 本時の指導 (7/14)

(1) 本時の目標

観点や構成、資料の使われ方に着目して本論3を読み、文章を発表原稿に書き直す。

(2) 本時の評価規準

**読**写真やグラフと文章との効果的な結び付きを考え、発表原稿に書き直している。

(3) 達成基準 (ルーブリック評価)

A	B	C
言葉や動きを補いながら、選択したグラフを適切な位置に挿入し、その良さに気付いて説明文を発表原稿に書き直している。	言葉や動きを補いながら、選択したグラフを適切な位置に挿入し、説明文を発表原稿に書き直している。	言葉を補いながら、説明文を発表原稿に書き直している。

(4) 準備物

- ・ワークシート
- ・掲示用本文
- ・振り返りシート

(5) 学習の展開

	主な学習活動 [学習形態] ・主な児童の反応	□発問・指示・切り返し □評価規準 ★支援を要する児童への手立て ○その他の働きかけ
つ か む ⑤	1 単元のゴールを確認する。[全体]	○学習計画をもとにゴールイメージを明確に持って本時の学習に入らせる。
	2 学習課題を確認する。[全体]	
	本論三の文章を発表原稿に書き直そう。	
自 分 の 考 え を も つ ②③	3 第13, 14段落の文章と写真を関連付け、発表原稿に書き直す。[全体] ・1枚目は、木型の写真だから14段落です。 ・木型の写真だけど、キャプションを見ると職人さんのことだから13段落だ。	○前時までの学習を想起させ、言葉や動きを補いながら原稿様式に書き直させる。 ○人の手が移っていることに着目し、本論3の観点は支える人であることをおさえさせる ○ここでは資料の挿入位置を指定する。
	4 第15段落に必要な資料を考える。[ペア] ・人が和菓子を食べている写真がいい。 ・ここは写真では伝わらないと思う。 ・和菓子がなくなるかもしれないという内容だから、グラフがいいと思う。	○ペアで話し合い、写真以外の資料に目を向けさせる。
	5 2つのグラフから必要なものを選択し、文章を原稿様式に書き直す。[個人] ・Aのグラフからは、洋菓子より和菓子の購入希望がどの世代も低いことがわかる。 ・Bの表からは、和菓子に使う金額が最も多いことがわかり、金沢市では年間約16,000円近くも違っている。	○グラフを2種類提示し、選択させる。 ○選択したグラフを読み取らせ、言葉や動きを補いながら文中に挿入させる。 ★問いかけの文に注目させ、グラフがその問いに説得力を持たせるものであることを確認する。 ◎ <b>読</b> 写真やグラフと文章との効果的な結び付きを考え、発表原稿に書き直している。

【C(1)ウ】

学 び 合 う ⑩	6 書き直した原稿を発表する [全体]	○A, B それぞれの資料について, 書き直した文章を発表させる。 ○挿入位置の正当性よりも選んだ根拠を大切に考えを広げていく。
ま と め る ⑦	7 本時の学習を振り返る。[個人] ・グラフがあれば, はっきりと数がわかるので相手に伝えたいことがはっきりする。 ・自分の発表原稿を作る時にも, 表やグラフの数値は説得力があるので使いたい。 ・私はAのグラフを使ったけれど, 支える人という見方だったら, Bの表もわかりやすい。	○振り返りの視点を確認し, ノートに書かせる。 ★表やグラフを使うとどういう良さがあるのか考えさせる。

(6) 板書計画

○振り返り

- ・グラフがあれば, はっきりと数がわかるので相手に伝えたいことがはっきりする。
- ・自分の発表原稿を作る時にも, 表やグラフの数値は説得力があるので使いたい。
- ・私はAのグラフを使ったけれど, 支える人という見方だったら, Bの表もわかりやすい。

資料 A

資料 B

A・Bそれぞれの資料を選んだ根拠を書く

本論三の拡大コピー

四年生に和の文化をプレゼンしよう

和の文化を受けつぐ

本論三の文章を発表原稿に書き直そう。

(7) 評価の視点 (はりまや橋小学校授業づくりスタンダードより)

- ① 目標に対して問題や活動内容は適切だったか。
- ② 問題や活動のめあて, 内容, 見通しを明確につかませたか。
- ③ 求める力が身に付く言語活動内容だったか。(本時重点目標)
- ④ 目標と規準の達成に向かった指導と評価だったか。
- ⑤ めあてとつながる視点を持たせた振り返りだったか。